

第 6 回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第 6 回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成 25 年 9 月 10 日（火） 午前 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
3	会 場	穂高総合支所 3 階 第 3 会議室
4	出席委員	浅見郁子委員 市川孝子委員 猿田多鶴子委員 高橋互委員 藤原正三委員 降旗富雄委員 保尊利生委員 丸山恭弘委員 加渡正一委員 降旗幸子委員 伊藤勝委員 那須孝委員
5	市側出席者	宮田総務部長、堀内行政改革推進室長、鎌崎同室長補佐、丸山同室係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0 人 記者 1 人
8	会議概要作成年月日	平成 25 年 9 月 17 日
協 議 事 項 等		
会議概要		
1 . 開 会（藤原副会長）		
2 . 会長あいさつ（降旗富雄会長）		
3 . 議 事		
(1) 8 月 19 日委員会における意見等要旨の確認について		
(2) 協議事項		
「行財政改革の視点からの公共施設経営のあり方について」答申書について		
4 . その他		
5 . 閉 会（藤原副会長）		
○議事内容		
(1) 8 月 19 日委員会における意見等要旨の確認について 事務局説明		
・特に意見等無し。		
(2) 協議事項		
諮問「行財政改革の視点からの公共施設経営のあり方について」		
答申書の確認		
「鑑」について		
・ 4 行目の「貴職におかれては」を「貴職におかれましては」に改める。		
「1 はじめに」について		
・「減価償却」について行政には複式簿記によるバランスシートを作成する会計もあることから、「企業会計に見る減価償却」という表現に改める。		
・結びの部分「面もある」という表現では、他の部分についての言及が必要となる、後段で施設なのか施策なのかという、検討における戸惑いが表現されているため「面がある」に改める。		

「2 答申事項（分野別の公共施設再配置における考え方）」について

生涯学習施設

- ・「観光・教育と連携した活用方針を明確にする」という表現を加える。

子育て施設

- ・保育園の運営については「県内でも民間に任せていく事例が見られる」という表現に改め、今後の整備方針については「景気動向等子育て環境の変化」に対応した表現となるよう、事務局において発言者と調整する。
- ・児童館について、「児童クラブ」は小学校1年生から4年生までの登録児童が学校から直接「児童クラブ」に行き保護者の迎えを待つ制度であるため、「学校から帰宅し、改めて児童クラブに向かう」という表現はおかしいので、「児童クラブ」を「児童館」に改める。

健康づくり施設

- ・入浴施設については、単なる入浴だけではなく、健康指導が出来る施設に進化してほしい、また観光面での活用も考慮した表現が必要と考えるが、既に統合が検討されているため、変更しない。

商工観光施設

- ・天蚕センターについて、「観光振興の上から重要な施設」とし、天蚕は全国的にも稀有であるので、「市の宝」という言葉を加え、積極的に応援する表現とする。
- ・宿泊施設について、「ピレッジ安曇野」「ファインビュー室山」「ほりでーゆ～」については二つの意見となっているが、両論併記のままでよいものだろうか。
- ・宿泊3施設の民営化については、民間譲渡した場合のシミュレーションを行なっているが、国庫補助金の返還問題がある。この問題については今後の検討課題であるので、現状では両論併記にとどめる。

「3 答申事項（新たな公共施設整備における留意点）」について

- ・重要な視点であるので、前段に「意思決定及び実行のスピードアップを目指し」という表現を追加する。

「4 おわりに」について

- ・「矜持」はあまり使わないので「誇り」に改める。
- ・「市民と行政が協力」とあるが、まちづくりでは「協働」という言葉が使われる。
- ・計画の策定であるから「協力」の方が良いのでは、この計画の実行部隊の活動が「協働」で表現される部分ではないか。
- ・行政主導の計画になる様だが、施設の見直しにあたっては市民も責任を持つという意識を醸成していかなければいけない。
- ・「機会を捉えながら市民に十分説明をし」ではスピード感がないので「積極的に情報発信し市民への十分な説明により」に改める。

市長への答申について

- ・答申の前に最終版を作成し委員に配布する。